



南側全景見上げ

丸の内パークビルディング / 外部: タワー棟・アネックス棟

外壁ファサードはテラコッタ等を使用し、クラシックとモダンの要素を併せ持つ仕上げになっています。面全体の中に色ムラを付けたり、エッジ部分に濃く焼けた表情を出す等、やきもの本来の表情を追求しています。大型陶板のテクスチャは、リップ形状・色・陰影で表情の変化が生まれます。タイル間は、合決(あいじゃく)り形状とし、目地を感じさせない納まりになっています。アネックス棟の給気ガラリ部分にはテラコッタルーバーを採用しています。

DATA

設計: 三菱地所設計
 施工: 竹中工務店
 所在地: 東京都千代田区丸の内2-6-1,2
 施工: 2009年9月

商品情報

テラコッタルーバー

タワー棟: TL-60×120/特注色
 【655×120×60(mm)】
 アネックス棟: TL-105.2×163.9/特注色
 【775×163.9×105.2(mm)】

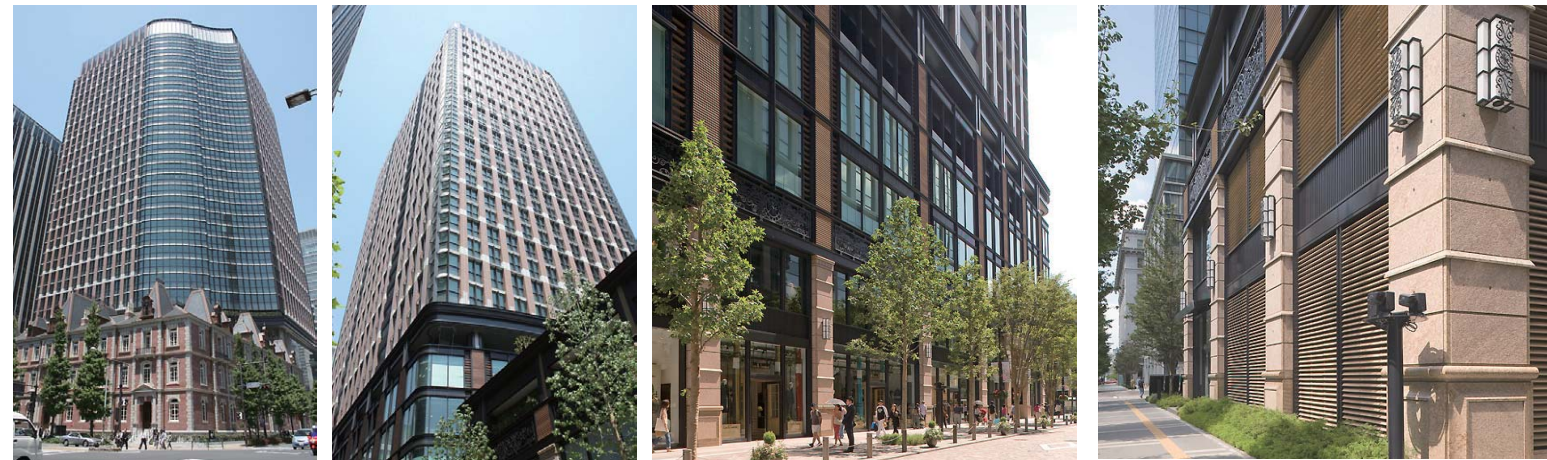
テラコッタ陶板

タワー棟: FC-11/特注色
 【1270×296×50(mm)】



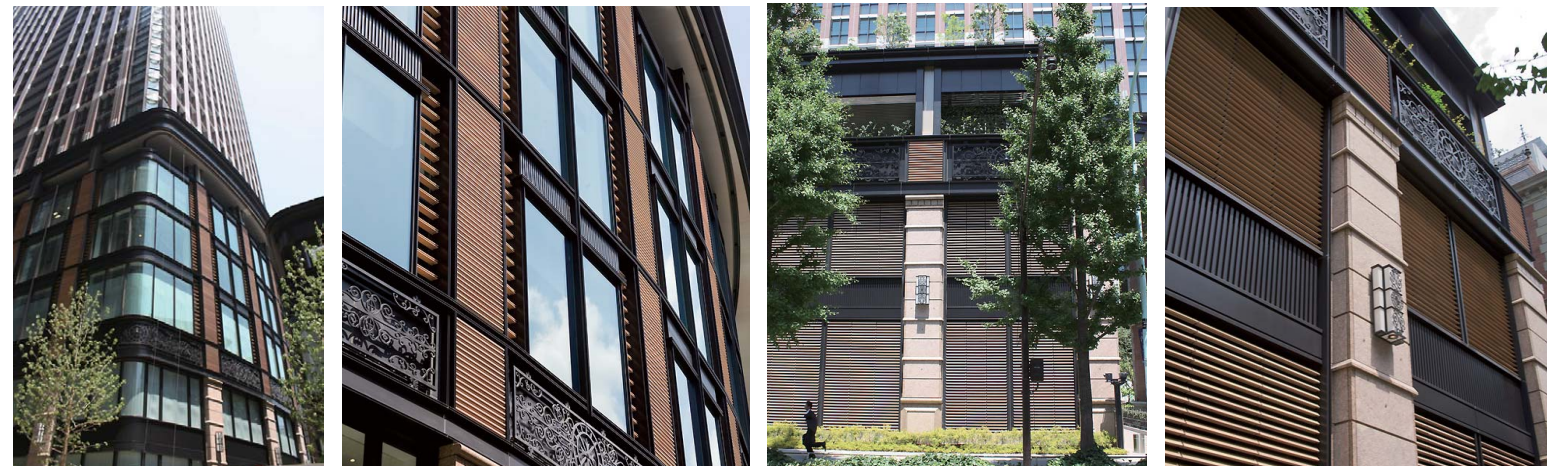
外観

外観



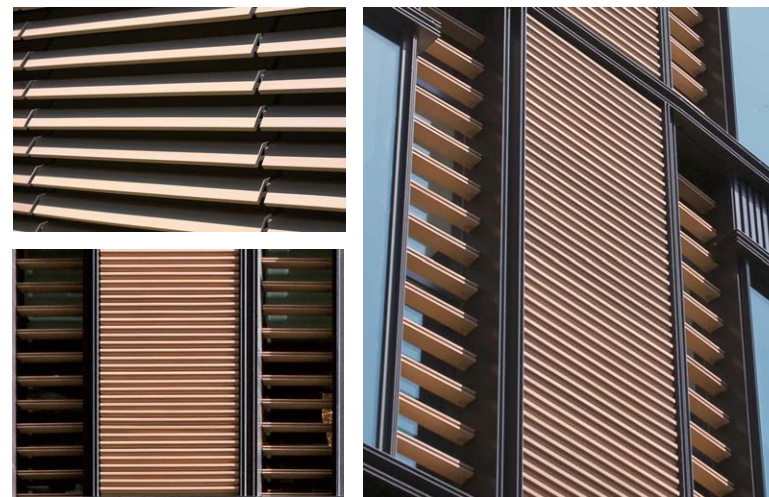
東京駅と有楽町駅を結ぶ、丸の内仲通りの中間に位置した、オフィスゾーン・商業ゾーン・美術館からなる、大型複合施設です。タワー棟、アネックス棟と、1894年(明治27年)に竣工した丸の内最初のオフィスビルを忠実に再現した、三菱一号館によって形成されています。

外観

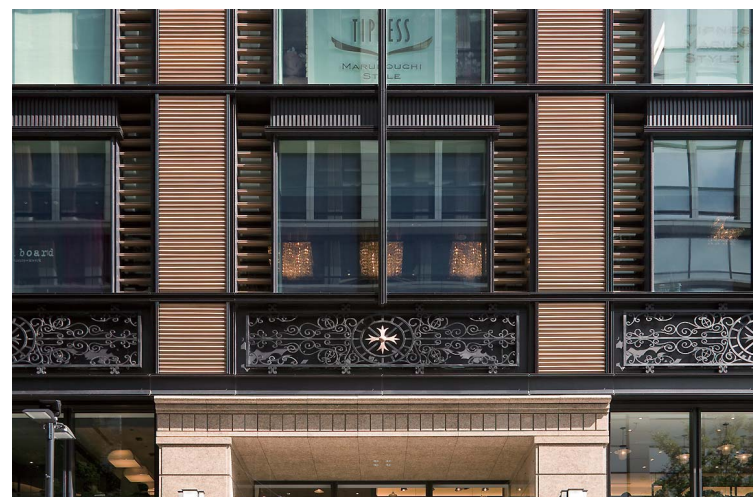


三菱一号館広場および仲通りに面した低層商業ゾーンの外壁は、視線が集中する部分であるため、建物の表情を豊かに演出するファサードとしています。タワー棟基壇低層部の柱の表情は、最下部を花崗岩、中層部を大型陶板でつくり込み、一部アネックス棟柱間は、給気ガラリのため、テラコッタルーバーを用いています。

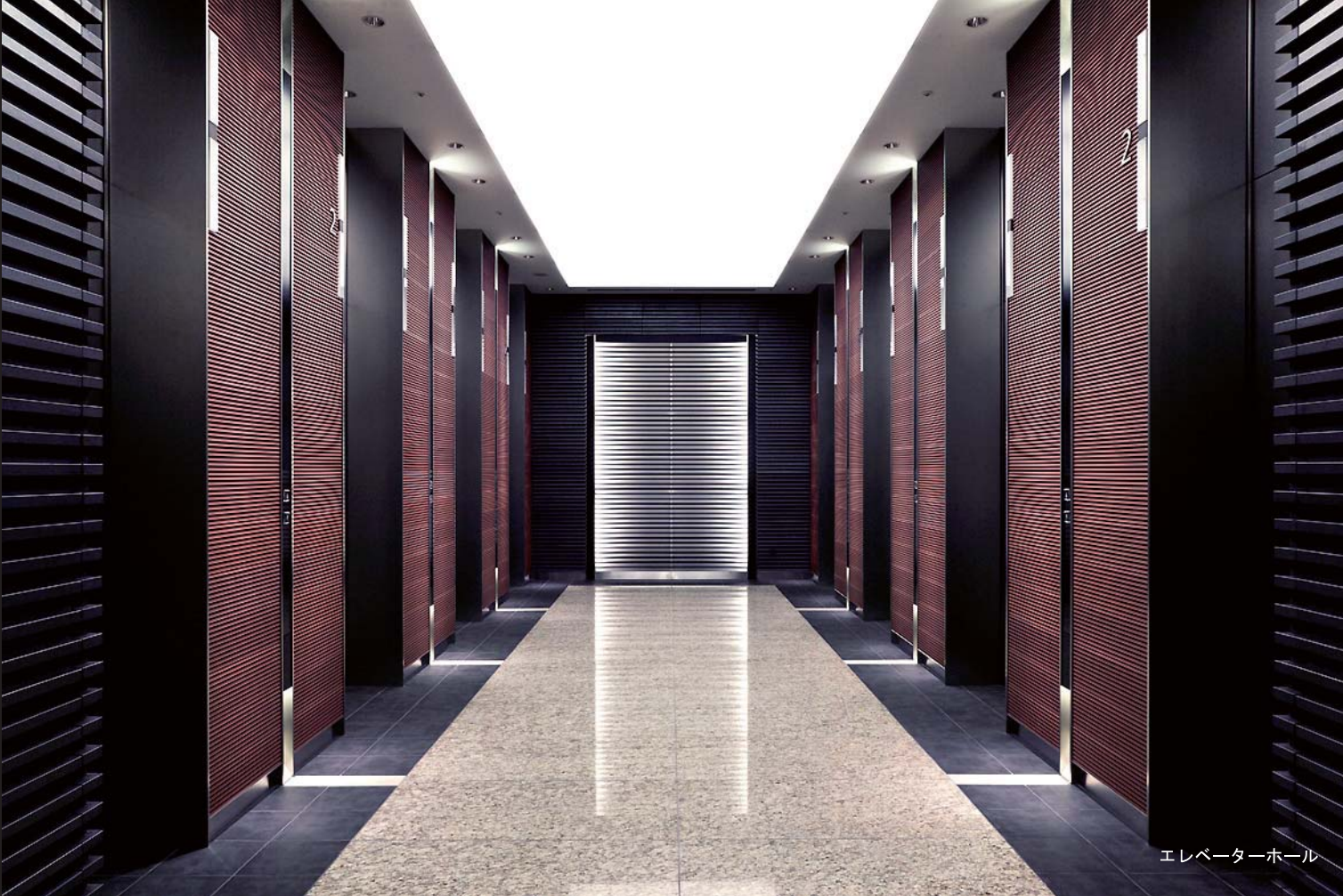
ディテール



外観



やきものの良さを表現することを重要視し、均一な色味を避け、タイル単体および面全体の中での色ムラに配慮しました。エッジ部分は、濃く焼けた、やきもの本来の表情を追求しました。大型陶板のテクスチャは、横リップ形状を施し、色とともに光の陰影により、表情の変化が生まれるよう配慮しました。テラコッタルーバーにも、1本1本の中に色むらを求めています。



エレベーターホール

丸の内パークビルディング / 内部:タワー棟

伝統あるシルエットと先進のフォルムを飾る、創造のテラコッタ。

斬新でありながらもクラシカルな雰囲気漂わせる「丸の内パークビルディング」。織りなされてきた丸の内エリアの歴史の上に、再構築によって先進的価値をデザイン・環境に付加しています。外壁・内壁の一部に、歴史ある製法と最新技術により進化し続けてきたテラコッタを採用。クラシカルな商業ゾーンの外装と、シャープでモダンなオフィスゾーンの内装が調和し、伝統と先進の融合が実現されたビルです。

DATA

設計:三菱地所設計
 施工:竹中工務店
 所在地:東京都千代田区丸の内2-6-1,2
 施工:2009年9月

商品情報

テラコッタ陶板:
 FC-11/特注色【597×303×35(mm)】黒
 FC-11/特注色【644×183.5×27(mm)】赤
 FC-11/特注色【597×309×27(mm)】赤・白



外観

内観

内壁に赤・白・黒の3色、赤は形状2種類の合計4種類のリブ形状のテラコッタ陶板を使用しました。明快な凹凸を持った内壁面は、陰影が際立ち、立体感のある壁面に仕上がっています。赤は還元焼成による色幅を付けました。吹き抜けのエントランスホール、エレベーターホール、オフィス廊下内壁、受付カウンターなどに様々なリブ形状の美しいテラコッタ陶板をダイナミックに使用しています。照明、エレベーター表示、建具等の詳細の取合い納まりも美しく施工されています。

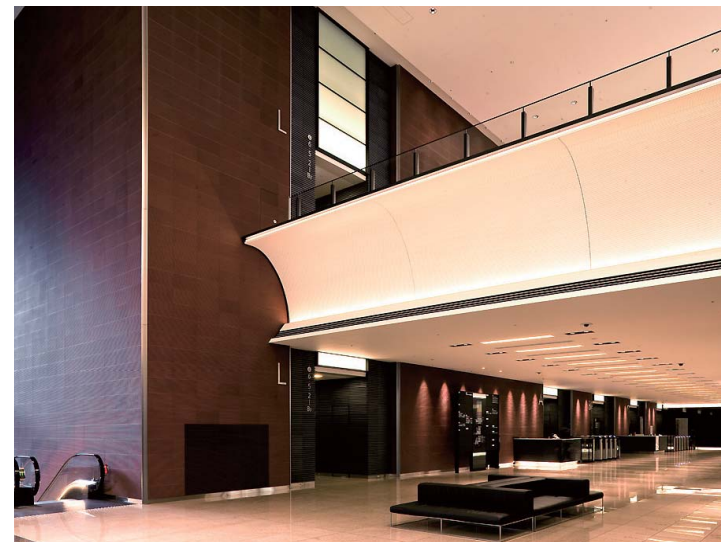


2階エントランスホール



基準階/オフィス出入口扉

内観

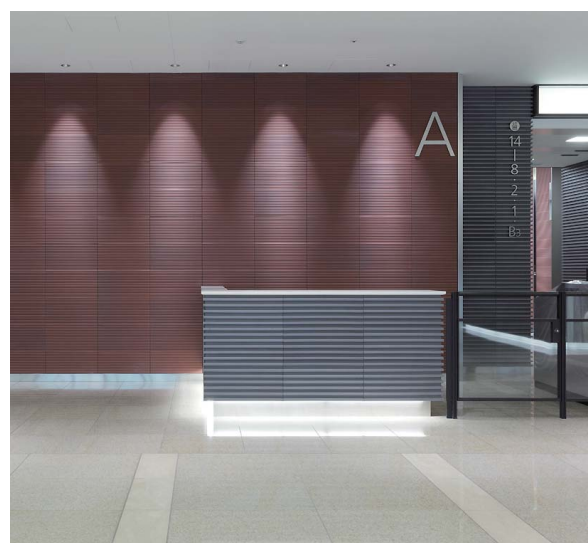


1階エントランスホール:二層吹抜



基準階/エレベーターホール

内観



1階受付壁面・受付カウンター

ディテール



タイルディテール(見上げ)



タイルディテール



タイルディテール